第5班報告書

国公立担当 第5班

代 表 者：品川森一（帯広畜産大学）

班 員：内藤善久（岩手大学） 山根義久（東京農工大学）
平井克哉（岐阜大学）

研究課題：東連大参加校の教育改善の具体策

東4大学獣医学科の再編による獣医学教育改善への取り組みの総括

平成7年秋から岐阜大学大学院連合獣医学研究科の構成4大学獣医学科学科長が獣医学教育研究の充実について話し合いを行い、弱小地方大学の獣医学教育研究の充実は大学間の再編しか路はないとの結論に達した。この間、4大学以外の大学とも再編の打診をしたが、当時は大学院重点化などそれら大学は当面する重要課題を抱えていたためと考えられるが、再編問題を話す状況ではないと判断された。このため、以後は学部教育に危惧を感じている連合大学院構成4大学で再編実現について検討を始めた。

平成10年5月末に岐阜大学大学院連合獣医学研究科の構成4大学獣医学科が一致して、獣医学教育充実のために努力することを決めた。具体的には、再編方法は4つの内の何れかの大学科に結集するのではなく、将来、部局化可能な大学に4大学獣医学科が新獣医学部を設置することを決めた。新獣医学部を設置する第1候補として東北大学を4大学獣医学科の意志として選んだ。

同年7月に東北大学を訪れ、農学部長及び医学部長と懇談し、総長への橋渡しを依頼した。

しかし、9月に入って総長の意向として「東北大学に獣医学部を創ることに反対しない。出て行く側の大学のコンセンサスが得られた段階、4大学が学長レベルでこの問題を内々でよいから決定したら、一学長でよいから総長に会いに来て欲しい。すなわち、各学部で決議して学長が対応できる段階でなければ、受け入れ側は動くことができない。それ故に各学科長や代表とは会へない。」と医学部長より伝えられた。

以後、獣医学科レベルでは進展が望めないことが明らかとなったため、各大学がそれぞれの事情に合わせた方法で、以前に増して、獣医学科が大学を離れ一大学に結集することについて学部の理解を求める努力をすることに焦点を絞った。しかし、同年始めに西の4獣医学科が九州大学に学部を創ることを希望し、九州大学総長とパイプを持ったことが明らかになったことを受けて、東の4獣医学科のある大学の学長・学部長間でこの問題に関しては足並みを揃えよとの約束が取り交わされ（久保帯広学長）結果として、東の各大学では獣医学の再編による充実が大学（学部）として正式に検討されずに平成11年を迎えた。平成11年度に入って、獣医学問題を切り離して独立行政法人化だけ検討することが困難なため、遅ればせながら獣医学問題も討議されることとなった。何れの大学も正式な結論を下さない中で、帯広畜産大学は平成12年8月始めに獣医学教育充実を自助努力により行うことを表明した。この結果、4獣医学科により東北大学に学部を創る構想が壊れ、残り3獣医学科による獣医学充実の検討が迫られることとなった。

一方、過去数年間の間に、獣医学教育水準の国際化が我が国の獣医教育でも問題となり、東大および北大再編による獣医学教育の充実に関心を示すこととなった。また、大学間の再編による獣医学教育充実が実現できない理由は、各大学の学部の理解が得られないことによるため、全国国立大学農学関係学部長会議に設置された「獣医学教育改善に関する臨時委員会」で基本姿勢が認められたことは、最大の難関を克服するための大きな力となると思われる。

時間の経過とともに、小規模で脆弱な4大学獣医学科を1学部に再編して充実するという4大学懇談会の方針も、東大および北大を含めた日本の獣医学教育充実へ変わらざるを得ないことを認識する必要がある。新たな場所に学部を設置することと、既存の組織を利用して再編する場合とは、参加する教員の立場の相違があるため、吸収合併ではなく、再編による充実とは何かを十分理解し、行動することも必要である。

懇談会の積み残しを過去2年間について振り返ってみると、平成12年4月の懇談会において、文部省に要望書を提出することが決められ、文章作成まで行われたが、情勢の変化により提出が見送られた。また、各種資料の纏めは未だ実現していない。

東4大学懇談会議事録

本議事録は東4大学の懇談会のものであり、科研の班の会議議事録は割愛した。また、平成12年本懇談会を凍結状態にすることが決まった後の動きについても割愛している。

第15回 東4大学懇談会

日 時：平成 11 年 6 月 6 日（日）13：30 - 15：30

場 所：芝弥生会館

出席者：品川、白幡、斉藤、宮沢（帯広大）、内藤、松坂、三宅（岩手大）

田谷、本多、山根、神田（農工大）、平井、源、小森、佐々木（岐阜大）

協議事項

1. 新学部の構想、カリキュラム等について

東 4 大学獣医学科が一学部に集結したときのカリキュラム案（原案）について本多教授から説明があった。

学部の入学生は 3 年次編入を主体とすること、教官組織のパーマネントのポジションを減らし時限の席を増やすこと、コース制などについて議論された。

2. 各大学の状況報告、今後の予定等について

各大学の状況について以下の説明があった。

帯広大：原虫病センターの全国共同利用への動きに関連するため、今は獣医学科の問題については話し合わない（学長）

岩手大：以前からあった獣医学部構想の凍結し、新たに学部創設委員会を設置することになる（学部への説明が可能になる）

農工大：学部長に提出した「獣医学教育充実案」についての説明があった。

岐阜大：獣医学教育問題について学部、大学レベルで検討が始り、当面の教育改善について取り扱う。

3. まとめ

再編に向けて各大学は学部説得の努力をさらに行う。

懇談会を密に持つ。

学科がより緊密に纏まることが重要である。

学内外に理解を求めるために、講演会などを開催する。

第 16 回 東 4 大学懇談会

日時：平成 11 年 7 月 19 日（月）15：00 ~ 17：00

場所：帯広畜産大学・本部棟中会議室

出席者：品川、白幡、山田（明）、山田（純）、佐藤（邦）、宮原、佐藤（基）、石黒、小俣、石川（帯広大）、内藤、松坂、三宅（岩手大）、山根、本多（農工大）、平井、小森、佐々木

(岐阜大)

協議事項等

1. 各大学の報告

各大学の教授会への具体的な対応

帯広大：何ら進展なし。学長の意志表明は8月から12月以降に延期。十勝の獣医師会でシンポジウムを開催し、学科長、十勝家保所長、北獣会会長、同窓会副会長がパネリストとして参加した。獣医学科が帯広を離れることは反対だが、獣医学教育充実の必要性についてより理解された。

岩手大：特に動きは無い。学部創設委員会で再編について話が出来ようになり、委員長の内藤教授が召集する予定。他に、概算要求で文部省より学部創設についての獣医学科の対応を問われたが、内容は不明。

農工大：特に動きなし。獣医学科の自助努力の構想を5月中に提出したが対応はない。単独での充実の可能性について、これから農学連合の統合の問題の状況を見ながら進める。獣医学科が中心となり、「農学の行く先」でフォーラムを企画している。

岐阜大：農学部の基本問題委員会で獣医学の問題を検討している。現在、岐阜大単独で獣医学教育充実の可能性を検討しており、基本問題委員会に基準協会の基準を基とした新カリキュラムを説明した。現教官で新カリキュラムがどの程度実施出来るか検討することとなった。「農学学部長懇談会に於て、獣医学問題が学部長会議で話題として上っているが、農学部問題の中の一つとしてとらえる。岐阜大では農学部で検討してダメなら大学全体として獣医学教育ができないか検討し、それでダメなら次のステップをと考えている」(農学部長談)。「研究指向の大学に何故集まるのか?、獣医学教育の実務教育の問題ではないのか?、獣医学教育を教えるのであれば医学部との関係もあるのではないかと、地道な進め方をすることと正式なルートを通してこなれば取り合えない事、日常(現状)の教育改善について検討すべきではないか」(学長談)

2. 再編関係資料の整理について検討

前回、内藤教授提案の、再編関係資料を纏めて利用しやすくすることに関して、合意が得られ、内藤教授を中心として行う。費用は各大学負担、後は品川教授と内藤教授が詳細を詰めることとなった。

3. 7月8日の唐木班会議の報告と今後の対応

別紙使用により説明(品川教授)

基準協会の実施する獣医学の横断的外部評価実施について、各大学の了解を得る際、各大学学長の基準協会および全国獣医学関係大学代表者協議会に対する位置づけが問題であり、了解あうる困難さが話された。

唐木班の5班の資料は、本懇談会のまとめを使用し、1~4班の作業はここで整理さ

れた資料を活用することとなった。

4. 新学部のカリキュラム、組織等の検討状況の報告

資料に基づき本多教授から説明があった。

総論の後に臓器別各論の実施、4年次に病理実習を始め5年からポリクリを実施、3年次には倫理、communication 学の導入等が特徴。シラバスは現在検討中。

論文コース・臨床コース分離、卒論の実施有無、語学教育、新学部構想におけるセンターの問題、学生定員等について若干討議されたが現段階では大まかな構想であり、これらについては今後詳細な検討を持って決定されることが強調された。

5. その他

当面の教育改善について

1) 大学間相互協力に関する各大学の進行状況

各大学の協力の一つとして出張の折りはその機会を有効利用して講義する事が現実に行われていることが報告された。帯広大では、臨床教育に臨床獣医師の非常勤講師（予算措置なし）としての活用事例が報告された。

2) その他

岩手から、「教授会で獣医学部問題は棚上げと成っているが、四大学懇談会の討議事項と教授会への対応を如何にしたらよいか？」と問い掛けられたが、各大学の事情が違うので、教授会説得、学部説得は各大学に任せるといった意見が出た。

第17回 東4大学懇談会（拡大第5班班会議を兼ねる）

日時：平成11年10月12日（火）15：00～17：00

場所：熊本市市民会館2階第2会議室、

出席者：品川、白幡、山田（純）、佐藤（基）、宮沢（帯広大）、内藤、松坂（岩手大）、山根、本多、田谷、神田、金子、町田（農工大）、平井、小森、源（岐阜大）

協議事項

東4大学のその後の進展と今後の対策

午前・午後に行われた国公立、全国の協議会の内容のうち、国公立協議会の東西各4大学の再編についてのスケジュールが、平成13年度概算とし、間に合わないところは第2陣とするとする件について話し合われた。また唐木先生から「東は4校での再編ばかり考えていないでその他の方策を考えることも必要な時期に至っているのではないか」との唐木提案についても話された。

帯広畜産大学以外は、遅くとも来年2～3月までには大学の獣医再編に対する正式な結論を得るのは困難かもしれないが、見通しをつけることが可能と報告された。唐木提案についても話題となったが、当面検討せず、東4大学で再編を行うことで合意された。先行

できる大学はどんどん進めることが認められた。

第 18 回 四大学懇談会（第 5 班班会議と兼ねる）

日時：平成 11 年 1 0 月 14 日（木）15：30～16：30

場所：サンルート熊本 4 階喫茶室

出席者：品川（帯広大）、内藤（岩手大）、山根義久（農工大）、平井克哉（岐阜大）

協議事項

1．唐木提案について

提案を検討した結果、現在、再編が進まない理由は、四大学での再編であるから困難とか、1～2 大学ずつ既存の旧制帝大と再編すれば良いとかではない。各大学の学部が「獣医学科が大学を出て他大学獣医学科と再編すること」の承認を得ることの困難さにあると確認し、唐木提案については、これ以上検討しなかった。

2．来年 7 月に文部省から独立行政法人化についての方針が提出された以後についてどうなるか全く不透明で、現在予想することが出来ないため、これにとらわれず、肅々と 4 大学の再編に向けて学内の了解を得る努力することが確認された。

第 19 回 東 4 大学懇談会

日時：平成 12 年 1 月 24 日（月）17：30～18：50

場所：東京弥生会館、

出席者：品川（帯広大）、内藤（岩手大）、山根、本多、神田（農工大）、平井（岐阜大）

協議事項

1．各大学の現状報告

帯広大：1) 次期学科長は山田純三教授

2) 学長から、独立行政法人化と共に獣医学科再編問題を学内の正式委員会で検討

3) 次期学長に、東北大学農学部長佐々木名誉教授に決定した。学長選での意志表示は「獣医学科は帯広畜産大学から離さない」であった。

岩手大：獣医学部創設委員会の結論として、「獣医学科が大学から離れて再編をすることを決定」と教授会に説明したが、異論が百出し、教授会で検討するに至ず。学部長は同委員会の解散を決定した。受け皿になる委員会の検討中である。

農工大：全く進展なし。将来構想委員会に提出した自助努力案が店晒状態。1 月 28 日に、東大副学長小林教授及び山口大学徳力教授を呼んでフォーラムを行う。

岐阜大：自助努力案について月 2 回程度の頻度で検討進めている。他学科は 27 名の教官

を獣医学科に移籍する必要性から、獣医学科を学部内に留めることを諦めかけている。
12月に東大副学長小林教授及び東大唐木教授の講演会を開催した。

山根教授から、東大の臨床教官充実の概算要求について情報が紹介され、もし概算が通れば、教官は全国の新制大学、私立大学から一本釣りで賄うことになるから、新制大学は有能教官が引き抜かれて益々ガタガタになるであろうとの見通しも紹介された。

第20回 東4大学懇談会（帯広大当番）

日時：平成12年3月29日（水）13：00～17：00

場所：芝弥生会館

出席者：品川、山田（純）（帯広大）、内藤、松阪（岩手大）、山根、本多、金子（農工大）、平井、小森、源、佐々木（岐阜大）、徳力（国公立協議会長）

1．西四大学の再編進捗状況

冒頭に徳力会長から山口大学農学部長が複数の大学に「山口大学農学部では2校での交渉は認めていない」との電話をした件及び西の進捗状況について、説明があった。

2．四大学の現状報告

岐阜大：自助努力案に対して、岐阜で獣医学教育は出来ないとの決議がとれなかった。

農工大：提出した自助努力案に対する学部長の返答を要望した。

将来検討委員会は自助努力案を農工で実施することは出来ないと結論した。

岩手大：農学部長提案により獣医学部創設準備委員会は本年度限りで将来計画委員会（仮称）に統合する。教授会対策の見込みが甘かったと報告された。

帯広大：学長が替わり、21世紀の帯広畜産大学の在り方を検討する委員会が設置予定ここで、獣医学問題や独立行政法人化等の検討が行われる予定で委員を今月中に選出する。

協議の中で、再編が進まないために再び出口論がでた。しかし、再編が進まないのは、出口の問題ではなく、各大学の学部を説得の成否の問題。この点を再度認識して各学部の説得が必要。

3．東4大学懇談会に東大、北大が参加することに関して

東大・北大の再編検討への参加は、先ず、東4大学懇談会に参加してもらい意見交換を行うこととしたい。懇談会を協議会の行われる4月3日の、行事が終わった後に行うこととした。

第 21 回 東 4 大学懇談会

日時：平成 12 年 4 月 3 日

場所：東大農学部 7 号館会議室

出席者：品川、山田(純)、白幡、山田(明)、宮澤(帯広大)、内藤、松阪(岩手大)、山根、本多、金子(農工大)、平井、小森、源、佐々木(岐阜大)、藤田、藤永、喜田、小沼、乗原、斉藤(北大)、吉川、小野、佐々木、土井(東大)、唐木(全国獣医学関係大学代表者協議会)

今回は東大、北大ならびに全国獣医学関係大学代表者協議会から唐木会長がオブザーバーとして参加し、意見交換を行った。

意見交換の結果、以下のことが確認された。

1. 東北大案はそのままとする。
2. 東 4 大学懇談会に東大、北大が参加し、再編についての勉強会(懇談会)を行う。
3. 毎月 1 回程度開催する。経費は科研費を当てても良い。

資料として東大から、検討中であるとの断りが付いて「東京大学獣医学専修カリキュラム案」が提示された。

北大、東大ならびに唐木会長退席後に以下のことが確認された。

1. 東大、北大が東 4 大学の懇談会に参加することを各大学で了解すること。
2. 次回東 4 大学 + 東大、北大懇談会を 5 月末に開催する。
3. 文部省に対し要望書を送る。4 月 20 日頃までに品川代表が作成する。

第 22 回 東 4 大学懇談会(農工大当番)

日時：平成 12 年 5 月 26 日(金) 14:00 ~ 17:00

場所：東京大学農学部 7 号館 405 号室

出席者：品川、山田(帯広大)、内藤、谷口(岩手大)、山根、本多、金子(農工大)、小森、工藤、北川(岐阜大)

協議事項

獣医学再編(東北大学との対応)

品川代表より東北大学と接触した結果、「東北大学農学部内に2ないし3獣医学科を学科として受け入れる可能性があれば、農学部に獣医学問題を検討する委員会を正式発足させる。四大学獣医学科が揃っての場合は大きすぎて学科では困難。」との見通しである旨説明があった。協議の結果、当面東4大学の獣医学科が統合再編して東北大学に獣医学部設立を目指して努力する。ただし、学科についての検討も必要があるとの意見が出たため、東北大学が農学部に学科として受け入れる場合の対応を各大学の獣医学科に持ち帰って検討することとした。

獣医学教育改善に関する緊急会議議事録

日時：2000年6月26日午前9時30分-12時

場所：東京大学農学部

呼びかけ人：全国大学獣医学関係代表者協議会会長 唐木英明

出席者：国公立大学獣医学協議会会長 兼 西連大代表者 徳力幹彦

東連大代表者 品川森一

東大、北大グループ代表者 土井邦雄

平成13年度概算を目指して努力を続けてきた獣医学教育改善運動であるが、すでに実質的には概算要求のタイムリミットを過ぎてしまった。今後の運動方針を早急に再構築することが求められるので、関係者に呼びかけて緊急に会議を行った。その結果、以下の点が確認された。

- 1) 西4大学と九大との非公式な話し合いが6月29日に開催されるが、東4大学、東大、北大は大きな動きがなく、平成13年度概算は各大学ともにほぼ不可能な状況である。
- 2) 獣医学教育の改善のために全大学は平成14年度概算を目指して引き続き努力する。
- 3) 具体的な運動方針はこれまでのものを引き継ぐ。

4) 今後、情勢の変更があった場合には早急に会合を開き、新たな方針を協議する。

なお、農学部長会議などにおいて、「全国獣医学関係大学代表者協議会」の名称について不快感が表明され、教育改善の論議に水を指すような事態が起こっています。私達が「大学代表者」として活動しているのではないことは「規約」にも明記されていますし、これまでも関係者にご説明に務めているところです。しかし、このような瑣末な事柄のために、本筋である教育改革の進捗が少しでも遅延することは、私達の本意ではありません。そこで、三十数年の歴史を誇る本協議会の名称を「全国大学獣医学関係代表者協議会」に変更することを提案することにしましたので、あわせてご報告します。

第23回 東4大学懇談会議事録（岐阜大当番）

日時：平成12年9月9日 13:30～16:30

場所：東京 弥生会館

出席者：品川、山田、西村（帯広大）内藤、三宅、谷口、津田、森松（岩手大学）金子、本多、林谷（農工大）小森、平井、工藤、北川、鈴木、柵木、外崎、山口、村瀬、山本、杉山、福士、鬼頭（岐阜大）

協議事項

1. 次回の懇談会までに検討することとなっていた「四大学の構成大学獣医学科は東北大学に獣医学教育組織を置く場合、農学部獣医学科でも可とするか否か」について

帯広：学部を選択する。

岩手：学部あるいは学科については議論していない。基準協会案を最低とすることには合意されているが、学部または学科についてはつめていない。

農工：学部であること。

岐阜：基準協会の基準を満たすこと。

2. 獣医学教育充実の方針に関する各大学の学部・大学の方針

帯広大：「自助努力により獣医学教育を充実する」と学長の意志表明

一方、学長は、「大学としては再編に対してコメントしない。東北大学案をキャンセルしない。獣医学再編のルートは継続して繋いでほしい」ともコメント。

岩手大：未だ学部・大学から正式な返事なし。

農工大：未だ学部・大学から正式な返事なし。

将来問題検討委員会で他大学に獣医学部をつくる、農工大に獣医学部を作る等の可能性を含めて検討する。

岐阜大：未だ学部・大学から正式な返事なし。

自助努力案を学部で1年間検討したが受け入れられず。

学部内で、1選択肢として、全国的な再編整備の動きの中で対応することもやむなしの雰囲気。

3. 帯広大が自助努力を表明したことに関連した各学科の意向

帯広大：学科はなお、他大学と学部にも再編することを希望

岩手大：他大学との再編を断念せず、岐阜大と農工大の連携で推進

農工大：獣医学部の設立を希望

東北大学がダメなら他の大学院大学を受け皿として考慮

岐阜大：基準協会の基準以上を目指す

学科，学部には必ずしもこだわらず

4. 帯広大が自助努力を表明したことに伴う東4大学懇談会の今後について

四大学の枠組みは残すが，各大学の活動に縛りをかけない。

開店休業状態とするが，必要に応じて開催することとする。

以上の2点が了承された。